

子どもの生活等実態調査（速報）について

1. 調査概要

（1）調査の趣旨・目的

子どもの将来のために必要な環境整備と教育の機会確保を図るため、子どもたちがどのような生活を送っているか実態を把握し、特に経済面や社会的な理由による困難を抱えている子どもたちの課題を把握することで、今後の施策検討のための基礎資料とする。

なお、この調査は熊本県と協調して実施しており、調査項目等を調整し実施。

（2）調査対象

子どもを持つ世帯：2学年（小5・中2）×各3,000世帯（子どもと親）

計6,000世帯 12,000人

その他、要支援者（就学援助、児童扶養手当、生保受給世帯など）

支援者側（学校、児童福祉施設、公的機関等支援者など）へも別途実施

（3）調査項目

世帯の属性（家族構成、収入・就労状況）、生活状況（生活習慣、親子の関わり）、学習・文化面（進学意向、塾や習い事）、物質的剥奪（食料、文具・教材、医療、制度）、社会関係の欠如（相談相手の有無）、心理・精神面（自己肯定、悩み事）など

（4）スケジュール

7月初旬～7月下旬	学校経由アンケート調査実施
8月	アンケート単純集計
9月	単純集計速報
9月～12月	分析、まとめ

2. 調査速報（学校経由アンケート 7/3～7/21）

（1）配布数・回収率

①学年別

小5、中2とも回収率に大差なく76%を超えた。

		配付数	回収数	回収率
小5	親	3,012	2,329	77.3%
	子	3,012	2,325	77.2%
	計	6,024	4,654	77.3%
中2	親	3,024	2,274	75.2%
	子	3,024	2,263	74.8%
	計	6,048	4,537	75.0%
全体	親	6,036	4,603	76.3%
	子	6,036	4,588	76.0%
	合計	12,072	9,191	76.1%

②区別

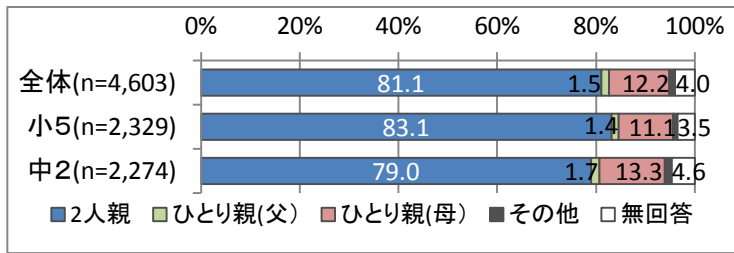
中央区で7割に満たなかったが、他の区では8割近い回収率となった。

	配布数	回収数	回収率
中央	2,440	1,689	69.2%
東	3,550	2,802	78.9%
西	1,292	991	76.7%
南	2,392	1,829	76.5%
北	2,398	1,876	78.2%
不明		4	
計	12,072	9,191	76.1%

(2) 調査結果 (単純集計 一部抜粋)

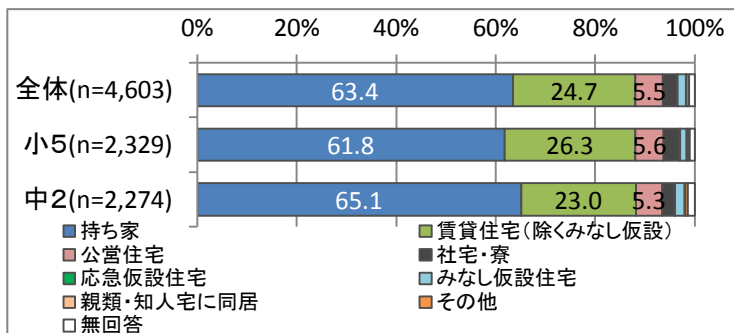
【1. 世帯の属性】

① 世帯の構成(ひとり親等の別)



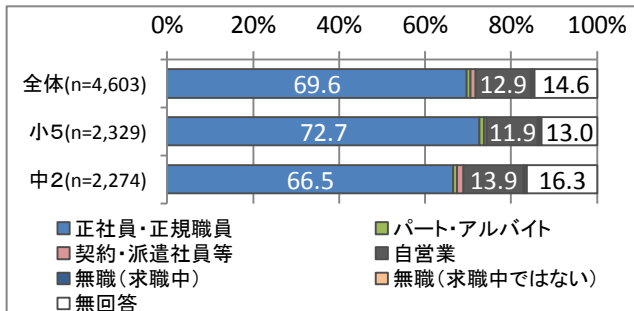
ひとり親世帯も14%近い割合となった。ひとり親世帯では母子家庭がほとんどを占めた。

② 住居



持ち家が6割を超え、次いで賃貸住宅、公営住宅の順となった。

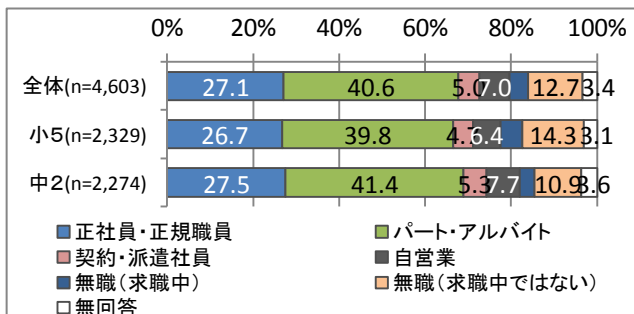
③ 就業状況(父)



	全体(%)	小5	中2
正社員・正規職員	69.6	72.7	66.5
パート・アルバイト	0.9	0.9	0.9
契約・派遣社員等	1.1	0.7	1.6
自営業	12.9	11.9	13.9
無職(求職中)	0.4	0.4	0.4
無職(求職中ではない)	0.4	0.3	0.5
無回答	14.6	13.0	16.3
計	100.0	100.0	100.0

正社員が7割近くを占め、次いで自営業の順となった。

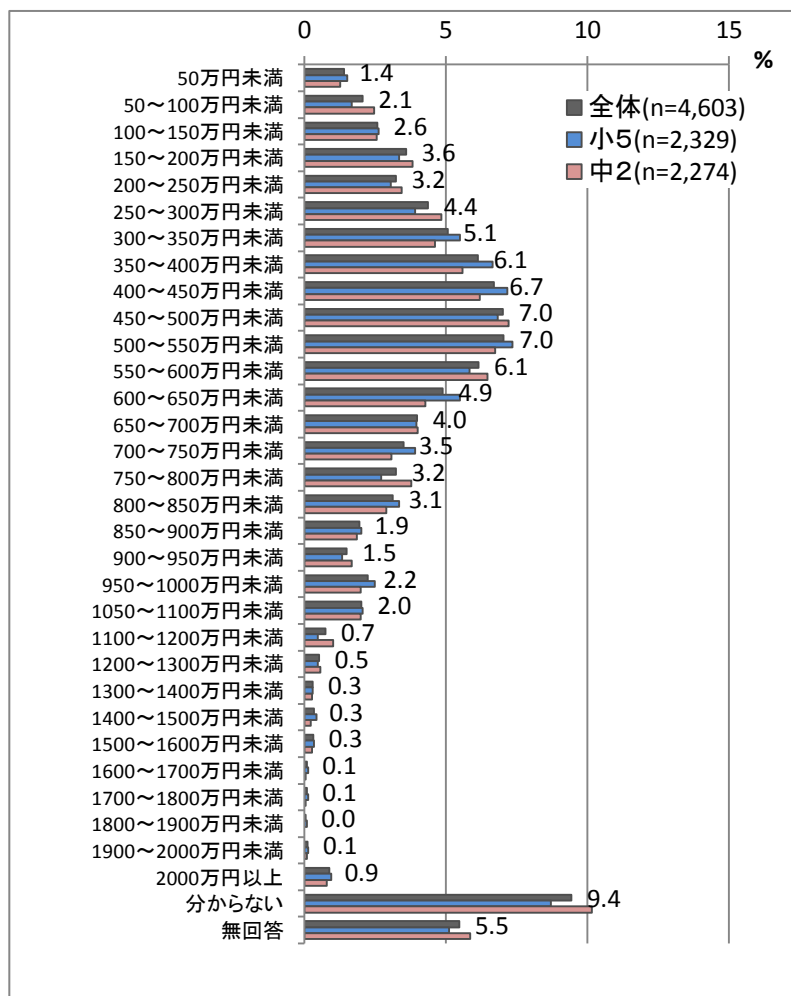
④ 就業状況(母)



	全体(%)	小5	中2
正社員・正規職員	27.1	26.7	27.5
パート・アルバイト	40.6	39.8	41.4
契約・派遣社員	5.0	4.7	5.3
自営業	7.0	6.4	7.7
無職(求職中)	4.3	5.1	3.4
無職(求職中ではない)	12.7	14.3	10.9
無回答	3.4	3.1	3.6
計	100.0	100.0	100.0

パート・アルバイトが4割近くを占め、次いで正社員の順となった。

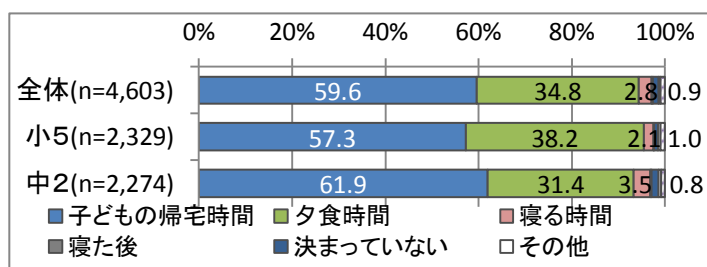
⑤ 世帯所得の合計



450万円から550万円が最多となった。

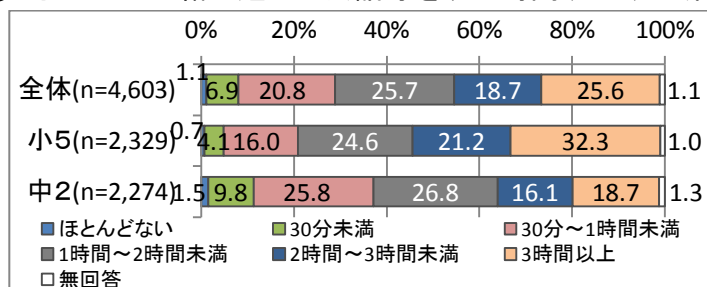
【2. 生活状況（親子の関わり）】

① 保護者が家にいる時間帯（保護者アンケート）



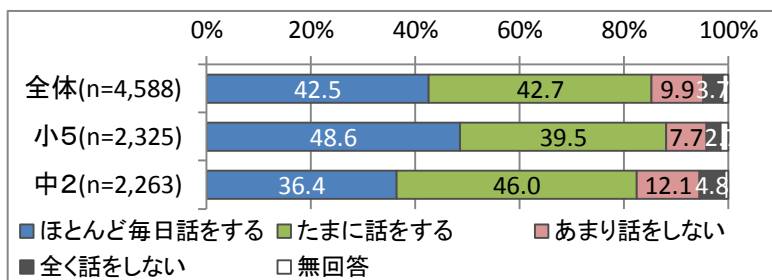
「子どもの帰宅時間」には家にいる保護者が6割程度、「夕食時間」までには家にいる世帯を含め9割を超えた。

② 子どもと一緒に遊びや会話等をする時間（平日）（保護者アンケート）



子どもと一緒に遊びや料理、会話等をする時間は、平日で1時間から2時間未満、3時間以上が多いが1時間未満の割合も多い。

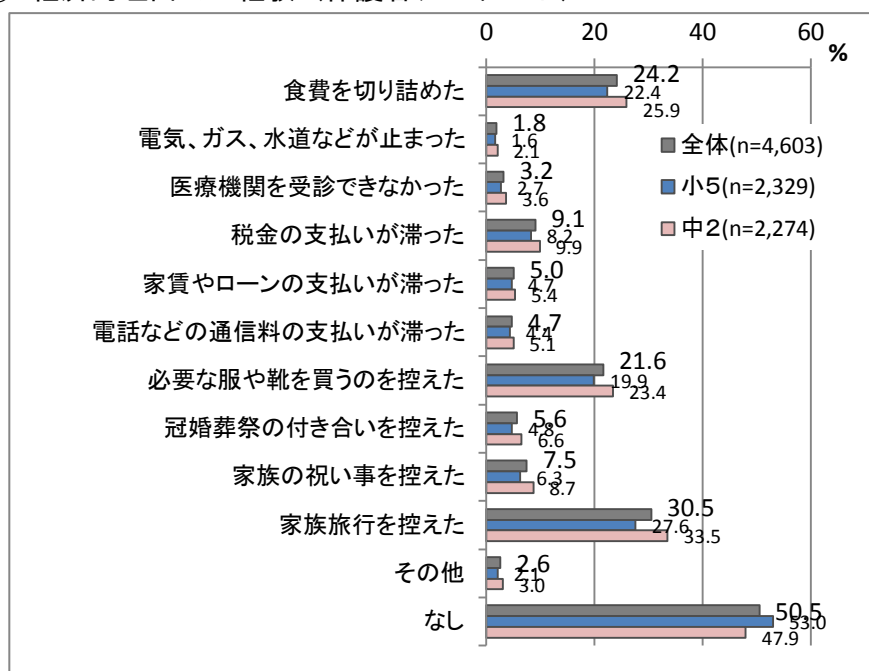
③ 保護者と学校のことを話す頻度（子どもアンケート）



「ほとんど毎日」「たまに」を合わせると8割を超えたが、「あまり話をしない」、「全く話をしない」も全体で1割を超えた。

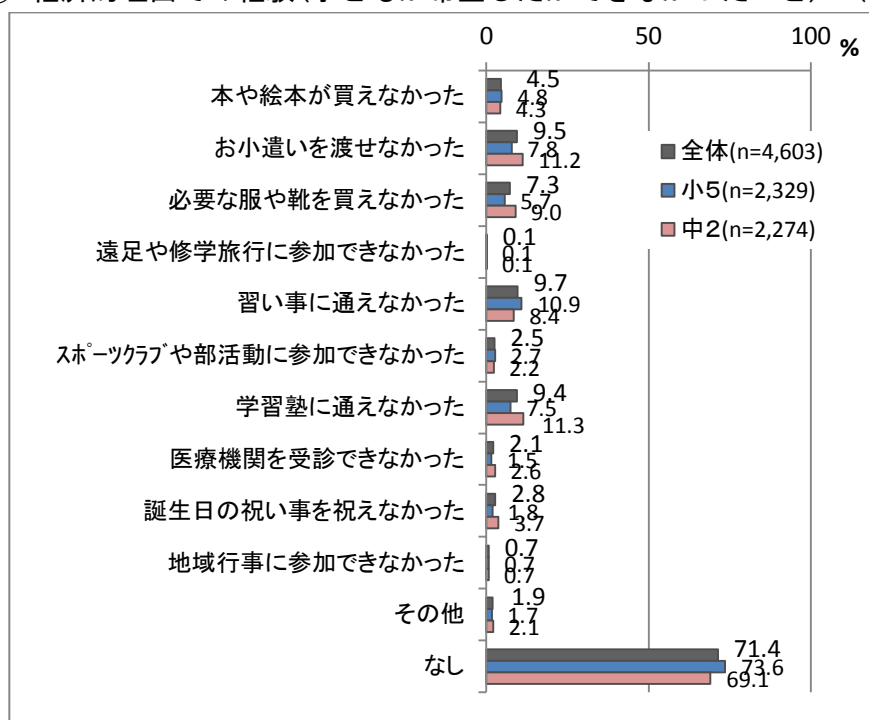
【3. 経済的要因による困難なこと】

① 経済的理由での経験（保護者アンケート）



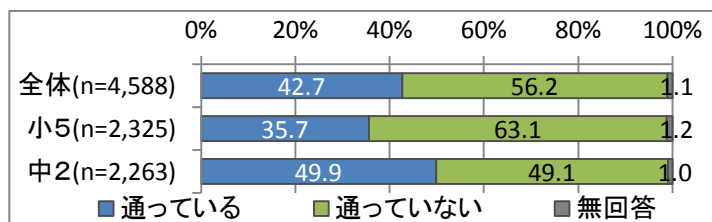
経済的理由による経験では、「家族旅行を控えた」、「食費を切り詰めた」、「必要な服や靴を買うのを控えた」の割合が2～3割程度存在した。

② 経済的理由での経験（子どもが希望したができなかったこと）（保護者アンケート）



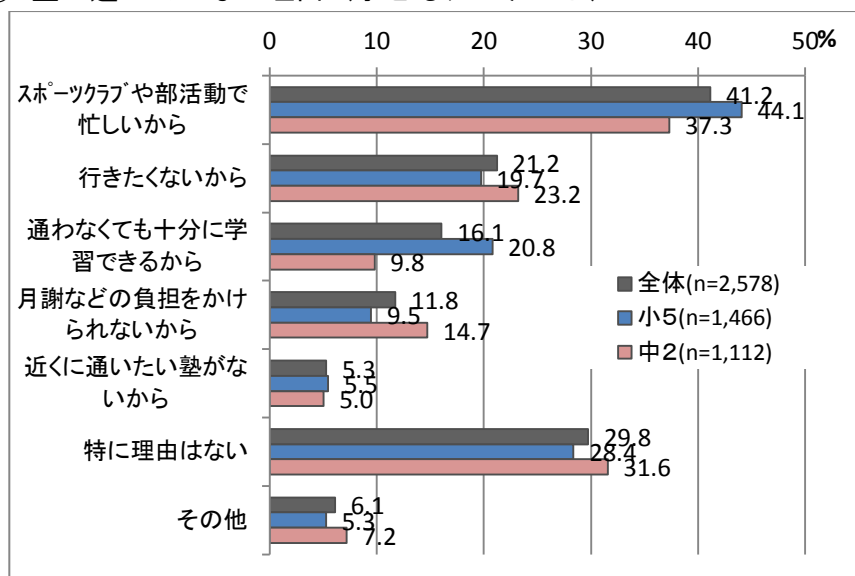
経済的理由による経験（子どもが希望したができなかったこと）では、「なし」が7割を占めたが、「習い事に通えなかった」、「学習塾に通えなかった」、「お小遣いを渡せなかった」の割合が1割程度存在した。

③ 塾の利用（子どもアンケート）



小学校でも3割以上、中学校では半数が塾に通っている。

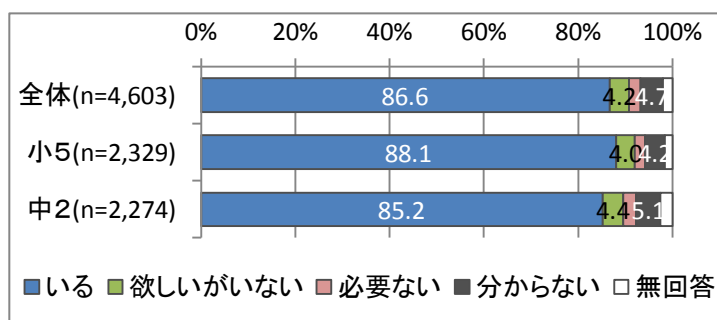
④ 塾に通っていない理由（子どもアンケート）



「クラブ等で忙しい」「特に理由はない」が多いが、「月謝などの負担をかけられないから」も全体で1割を超えた。

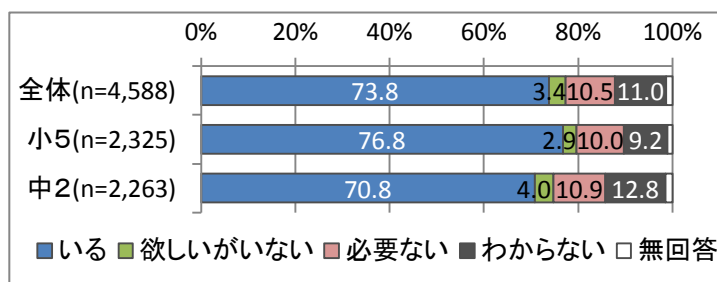
【4. 社会関係】

① 相談できる人の有無（保護者アンケート）



保護者・子ともに「欲しいがない」の割合は低かったが子では保護者と比較し「必要ない」の割合が多かった。

② 相談できる人の有無（子どもアンケート）



今後、世帯構成や所得による差異などを検証するための必要なクロス分析を行い、調査結果をさらに精査する。